

平成 27 年 3 月 4 日

福島大学環境放射能研究所が外国人専任教員

トーマス ヒントン マーク ジェレズニャク
(Thomas Hinton 氏・Mark Zheleznyak 氏) を採用

環境放射能研究所は 2011 年の東京電力福島第一原子力発電所事故に伴って環境中に放出された放射性物質の動態を学術的に解明し、科学の発展ならびに福島復興に資することを目的として、2013 年 7 月に設立されました。現在、現場に近いという特性を生かし、河川・湖沼、森林、海洋、生態系、計測法・分析計測機器、存在形態という 6 系統のプロジェクト研究を推進しています。また、広く世界に開かれ、その英知を結集した環境放射能動態に関する先端研究拠点となることを目指しています。

Thomas Hinton (トーマス・ヒントン) 氏について

福島大学とコロラド州立大学 (CSU) は、2011 年春に起きた福島第一原子力発電所より放出された放射性物質による環境への影響を調査するため、世界的に著名な放射生態学の専門家である Thomas Hinton (トーマス・ヒントン) 氏 (アメリカ) を共同で雇用することとなりましたので、ご報告いたします。

同氏はコロラド州立大学の卒業生で、フランス放射線防護原子力安全研究所 (IRSN) 環境リスク部門の副ディレクターを長く務め、またヨーロッパ各国の放射生態学研究者のネットワークである「STAR ネットワーク・オブ・エクセレンス」のコーディネーターとしても活躍してきました。IRSN を昨年 12 月に退職し、3 月 1 日付で、福島大学の環境放射能研究所の教授として着任しました。

福島大学は、コロラド州立大学との間に、すでに大学間交流及び学生交流に関する協定を締結していますが、この協定に基づき、コロラド州立大学が同氏の給与の一部を負担します。

コロラド州立大学は、環境保健分野では全米トップクラスの環境放射線保健科学科を有し、長年、放射線の生物への影響に関する研究に取り組んできました。2013 年にアメリカの大学としては初めて福島原発事故による警戒区域で土壌・植物試料を採取し、放射性物質の動向と影響の研究を続けています。

同氏は、放射線による野生生物と環境への影響について幅広く研究を行っており、現在はチェルノブイリ原発事故のタイリクオオカミ（ハイイロオオカミ）を調査しています。環境放射能研究所でもイノシシやニホンザル等の野生動物を対象に行う予定です。

同氏は、放射生態学者として当研究所の生態系プロジェクト研究に携わるとともに、STAR ネットワーク・オブ・エクセレンスのコーディネーターとしての経験と実績を生かし、国内外の研究者のネットワーク化を推進するとともに、当研究所を環境放射能研究における国際的拠点に発展させていくためのさまざまな国際共同研究の先導役を担います。

Mark Zheleznyak (マーク・ジェレズニャク) 氏について

福島大学環境放射能研究所は、平成 27 年 3 月 1 日付けで Zheleznyak Mark (ジェレズニャク・マーク) 氏 (ウクライナ) を専任教授 (担当分野は放射能地球科学部門放射能水文学) として採用しましたので、ご報告いたします。

同氏はウクライナ科学アカデミーの流体力学研究所沿岸地域流体学部門研究員、計算機・計算システム特別設計局水系数学的モデリング部門長、ウクライナ環境・水プロジェクトセンター (UCEWP) 研究開発ディレクター、計算機・計算システム問題研究所 (IMMSP) 環境モデリング部長を経て、平成 25 年 11 月、環境放射能研究所特任教授として着任しました。

同氏の研究成果は、チェルノブイリ事故後、同原発周辺を流れる河川を通じた放射性核種の移行に関する研究を行い、開発した移行モデルが河川・貯水池における放射性物質の拡散予測や有効な水資源保全対策を選定するために活用されています。また、欧州諸国が参加している原子力災害時施策決定支援システム RODOS の水文モジュールとしても採用されており、国際的に活躍している研究者です。

環境放射能研究所での研究課題は、福島第一原子力発電所事故によって降下した放射性物質が水系を通じて移行する過程の予測モデル開発で、すでに阿武隈川および浜通りの河川や貯水池についてデータを収集し、福島県内の水文モデルの構築と精緻化を進めています。この研究は福島県の今後の水資源・水生生物対策や水辺の環境対策に役立つことが期待されます。

(お問い合わせ先)
環境放射能研究所事務室
金野 (こんの)
電話 : 024-504-2848